



TITLE:

公共プロジェクトを対象とした社会的コミュニケーションに関するゲーム論的研究(Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

羽鳥, 剛史

CITATION:

羽鳥, 剛史. 公共プロジェクトを対象とした社会的コミュニケーションに関するゲーム論的研究. 京都大学, 2006, 博士(工学)

ISSUE DATE:

2006-03-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/143992>

RIGHT:

氏 名	は どり つよ し 羽 鳥 剛 史
学位(専攻分野)	博 士 (工 学)
学位記番号	工 博 第 2628 号
学位授与の日付	平成 18 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専攻	工学研究科都市社会工学専攻
学位論文題目	公共プロジェクトを対象とした社会的コミュニケーションに関するゲーム論的研究

論文調査委員 (主 査)
教授 小林 潔 司 教授 岡田 憲 夫 教授 多々 納 裕 一

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、行政と住民の間における社会的コミュニケーションが行き詰まる原因の1つが、行政と住民の間における情報・知識の不一致問題にあることを指摘している。その上で、行政と住民の間の委託—受託関係におけるアカウントビリティ構造をコミュニケーションゲームとしてモデル化することにより、両主体間におけるミスコミュニケーションを克服するための課題と方策に関して体系的に分析したものであり、7章から構成されている。

第1章は序論であり、本研究をとりまとめる背景及び目的を明らかにしている。また、コミュニケーションゲーム理論に関する既往研究をとりまとめ、各章の分析枠組みを整理している。

第2章では、行政と住民間の社会的コミュニケーションを検討する上での規範的概念として、アカウントビリティの構造と機能を理論的に分析している。アカウントビリティの中心概念は、受託者が委託者に対して委託された行為について説明するという2者関係として把握できることを指摘している。その上で、アカウントビリティ概念の構造が、意味の構造、正統化の構造、支配の構造という3つの部分構造から構成されることを明らかにしている。さらに、社会基盤整備における各構造の問題特性、問題分析の方法をとりまとめるとともに、次章以降における理論的分析の位置づけを明確にしている。

第3章と第4章では、アカウントビリティにおける意味の構造を分析している。まず第3章では、公共プロジェクトをめぐる討論過程に対して、プロトコル分析を実施し、討論参加者間の認識の不一致を検出し、合意形成過程を支援する方法論を提案している。具体的には、討論参加者の発言をファセット理論に基づいて分類することによって、参加者間の認識の不一致や意見対立状況、および討論過程における会話パターンを明確化できることを示している。その際、ある公共プロジェクトの是非をめぐる討論会議の速記録を分析の対象として取り上げ、一連の分析手法が適用可能であることを検証している。

第4章では、公共プロジェクトの実施をめぐる行政と住民を代表する1人の個人との間でとり行われるコミュニケーション過程をコミュニケーションゲームとしてモデル化し、プロジェクト情報の開示が個人の機会主義的行動を誘発する場合、結果として社会的に望ましいプロジェクトを実施することが不可能となることを理論的に明らかにしている。その上で、行政がプロジェクト情報を個人に開示し、社会的に望ましいプロジェクトを実施する上では、個人の機会主義的行動を抑制することが重要であることを指摘している。

第5章では、アカウントビリティの正統化の構造に着目し、公共プロジェクトの正統性が住民投票という社会的意思決定によっては必ずしも担保され得ないことを理論的に明らかにしている。すなわち、住民がプロジェクトに対して不完全な知識を有している場合、特定の利益集団が住民のプロジェクトの是非に対する判断に影響を及ぼし、結果として住民投票が不適切な社会的決定を導く可能性があることを不完備情報コミュニケーションゲームに基づいて明らかにしている。その上で、住民投票によって社会的に望ましいプロジェクトを実施する上で、個人のプロジェクトに対する知識の不完全性を克服することが重要であることを理論的に示している。

第6章では、アカウントビリティの支配の構造に着目し、社会基盤整備における行政と個人との間の信頼形成を、個人を

委託者、行政を受託者とする信頼ゲームを用いて分析し、社会基盤整備に対する言語体系の不一致に起因して、両主体の間で信頼関係が形成されないことを理論的に明らかにしている。その上で、行政の行動に対する個人の信頼を確保するための第三者評価制度をとりあげ、多様な言語体系を有する第三者委員から第三者パネルを構成するとともに、異なる言語体系の共有化を図る検証委員会を設置することによって、第三者委員間のチェック&バランスを有効に機能させることが、個人の行政に対する信頼を確保する上で重要であることを指摘している。

第7章は結論であり、本論文で得られた成果について要約している。

論文審査の結果の要旨

本論文は、行政と住民の間における情報・知識の不一致問題を対象として、行政と住民の間の委託—受託関係におけるアカウントビリティ構造をコミュニケーションゲームとしてモデル化し、両主体間におけるミスコミュニケーションを克服するための課題と方策に関して体系的に分析したものであり、得られた主な成果は次のとおりである。

1. アカウントビリティ概念とその発展系譜をとりまとめるとともに、アカウントビリティ概念の構造が、意味の構造、正統化の構造、支配の構造という3つの構造の複合体として構成されることを明らかにしている。
2. 公共プロジェクトをめぐる討論過程に対して、プロトコル分析を実施し、討論参加者間の認識の不一致を検出し、合意形成過程を支援する方法論を提案している。
3. プロジェクト情報の開示が個人の機会主義的行動を誘発し、社会的に望ましいプロジェクトを実施することが不可能となるメカニズムを、コミュニケーションゲームを用いてモデル化し、プロジェクト情報を開示する上で、個人の機会主義的行動を抑制することの重要性を理論的に明らかにしている。
4. 公共プロジェクトの是非をめぐる住民投票において、利益集団の発言がプロジェクトに関して不適切な社会的決定を導くメカニズムを理論的に明らかにした上で、住民のプロジェクトに関する知識の不完全性を克服することが住民投票の本質的な課題であることを示している。
5. 社会基盤整備の第三者評価が住民の行政に対する信頼に及ぼす影響を、信頼ゲームを用いてモデル化し、行政と住民間の信頼関係を形成する上では、第三者評価を導入するだけでは不十分であり、評価委員の間で言語の共有化を図ることが不可欠であることを理論的に明らかにしている。

以上要するに、本論文は、不完備情報ゲーム理論を用いて、公共プロジェクトに関わる社会的コミュニケーション問題を分析することにより、社会的意思決定過程における透明性とアカウントビリティ向上施策に関する理論的・実証的知見を得たものであり、学術上・実際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。